

2024年9月13日

埼玉県立大学・トレンドマイクロとの 高齢者のデジタル支援に関する共同研究の開始について ～デジタルデバイドを解消しウェルビーイング向上を目指します～

武蔵野銀行（頭取 長堀 和正）は、公立大学法人埼玉県立大学（越谷市、理事長 田中 滋、以下「埼玉県立大学」）、トレンドマイクロ株式会社（以下「トレンドマイクロ」）と3者で、ウェルビーイング向上に向けた高齢者のデジタル支援に関する共同研究を開始いたしましたので、お知らせします。

当行と埼玉県立大学は、2010年に締結した「産学連携協力に関する覚書」のもと、地域の高齢者の方々の健康維持・増進に向け、「笑顔はつらつ健康体操」を開発し、それに基づく体操教室の継続開催（本店ビルの地域創生スペースで13回、累計250名が参加）などに取組んでおります。

また、サイバーセキュリティ企業のトレンドマイクロとは、2023年より、アクティブシニア向けのスマートフォン教室を、当行子会社の「むさしの未来パートナーズ」の会員制サービス「彩・発見」の一環として共催してまいりました。

今般開始した共同研究は、これらの取組みを発展させたもので、日常生活にデジタル技術が浸透するなか、高齢者の方々を中心にデジタルの利便性を享受できない「デジタルデバイド」^{注1}の状態を解消することを目指し、高齢者だけでなくその支援者など地域社会を構成する全ての方々のウェルビーイング向上を目指していくものです。

本研究では、高齢者のデジタル機器（スマホやタブレット）に関するニーズだけでなく、高齢者支援に日々携わっている方々より課題等を捉える調査を行ってまいります。

具体的には「フォーカスグループインタビュー」^{注2}という手法を用いて、高齢者のケアやサポート、サービス提供などを行う様々な立場の方々にインタビューを実施し、当行行員も高齢者へのサービス提供者の立場でインタビューに協力いたします。

その後、インタビュー結果を分析し、支援者向け研修カリキュラムやテキストの制作、高齢者向け相談会の開催など、デジタルの安全・便利な活用を支援する仕組みを構築していくことで、本研究の成果を地域社会に還元していく予定です。

これらに加え、3者による活動として、10月に越谷市が主催する「こしがや光齡者フェア」に協力し「高齢者スマホ相談会」を実施するなど、地域の様々な主体との連携も深めていく計画です。

当行では、全ての人々が自分らしく、健康で幸福に生活できる地域社会の実現に向け積極的に取組んでまいります。

注1 デジタルデバイドとは、インターネット等情報通信技術を使うことのできる人とできない人の間に生じる「情報格差」をいいます。

注2 フォーカスグループインタビューとは、ある特徴にフォーカスしたグループにインタビューを実施し、自由な会話の中から対象者の相互作用を利用し幅広い、より包括的なデータを得る調査手法です。一例として、高齢者の見守りに関わる方々にインタビューを行い、現場の声をヒアリングしていくことで、「スマホをワンタッチで電話がつながるように設定しても、使ってもらえない」といった課題を抽出する、といったことが想定されています。

次ページへ



《共同研究の概要》

研 究 テーマ	個人のみならず地域・社会のウェルビーイング向上を目指したシニアのための持続可能なデジタル利用支援システムの開発	
目 的	デジタル支援において共助・互助の領域で活動している個人、団体と協働し、支援を受ける高齢者だけでなく、支援に関わる地域住民とともにウェルビーイング向上を可能にする、地域ニーズに即した安心安全なデジタル利用支援の仕組みや教材を開発し、その効果を検証する	
実施者	武蔵野銀行 埼玉県立大学（保健医療福祉学部 社会福祉子ども学科 小川孔美准教授） トレンドマイクロ	
期 間	2026年3月31日まで（2年間）	
活動予定 (2024年度)	9月～10月	フォーカスグループインタビュー調査 越谷市周辺で高齢者のデジタル支援に関係している 方々を対象にインタビューを実施 （地元ボランティア、高齢者支援専門職、スマホ 教室を運営している学生等20名程度）
	9月20日（金）	当行大袋支店でインタビュー実施
	10月8日（火）	こしがや光齡者フェアへの協力 （高齢者スマホ相談会）
	11月～3月	データ分析・支援モデル検討 ・インタビュー内容に基づきデータ分析を実施 ・データ分析結果を複数の研究者で確認、意見交換 を行い、妥当性を確保 ・分析結果の全体的構造化を図り、高齢者と支援者 の双方に役立つ新たな支援モデル等を検討
成果物	安全・便利なデジタル利用支援の仕組みや教材（学習支援システム／研修カリキュラム等）を開発、実際に運用を行い、その効果を検証、評価する	

以 上

報道機関からのお問い合わせ先
地域サポート部 地域価値創造室 郷 大助
TEL (048) 641-6111（代表）

個人のみならず地域・社会のウェルビーイング向上を目指した シニアのための持続可能なデジタル利用支援システムの開発

高齢者

- ✓ スマホ操作がわからない
- ✓ SNSを使いたい
- ✓ セキュリティが不安 ...

地域（越谷市）



高齢者の支援者

- ✓ スマホを覚えてほしい
- ✓ うまく教えられない
- ✓ 同じことを聞かれる ...

デジタルの「困りごと」の収集・把握（デジタルデバйд問題の整理）

武蔵野銀行

地域NW等の経営資源の提供

埼玉県立大学

研究の主導と成果の社会還元

トレンドマイクロ

セキュリティの知識・教材の提供

地域の高齢者
支援活動

連携

小川孔美准教授
学生（サークル）

連携

高齢者支援
イベント

データ収集
調査・分析

高齢者DX
支援システム
開発・提供

地域DX
リテラシー
向上

デジタル
デバйд
解消

ウェル
ビーイング
向上